

と「団体会員」によって成り立っています。

会員専用メーリングリスト (ML)にご登録ください!

会員専用MLへご登録いただくと、最新ニュースが届くほか全国の会員と情報交換をすることが出来ます。

※MLの登録メールがまだ届いていない会員の方は、各社のメールアドレスを登録の上、user@paradise.jp 宛に「登録希望」とご連絡ください。

特別寄稿

「パラダイス文書」から見える「秘密の楽園」

公益財団法人政治経済研究所 合田 寛

11月5日、ICIJ(国際調査報道ジャーナリスト連合)は昨年の「パナマ文書」に続き、新文書「パラダイス文書」を公開しました。「パラダイス文書」と名付けられたこの文書は、会社の内部文書、会計報告、メールのやり取りなど、さまざまな文書・資料からなり、合わせるとその規模は「パナマ文書」を上回る1340万件という史上最大のリークです。

「パラダイス文書」が注目されるのは、その文書の大きさだけではありません。ここにはオフショア世界を代表するすべての登場人物が顔をのぞかせています。

まず利用者の豪華な顔ぶれです。巨大企業、王族、政治家、超富裕者、聖職者、ハリウッドスター、スポーツ選手など話題に事欠きません。なかでもイギリスのエリザベス女王の個人資産が、ケイマン諸島で設立されたファンドで運用されていたことに注目が集まっています。

ケイマン諸島やバミューダ諸島などのタックスヘイブンは、イギリスの海外領土であり、元首はエリザベス女王、紙幣に印刷された肖像もエリザベス女王なので、驚くに当たらないといえるかもしれません。

その他、多国籍企業のアップル、ナイキを始め、アメリカのロス商務長官、カナダのトルドー首相の側近らの政治家、ローマカトリック教会の聖職者、歌手のマドンナ、F1王者ハミルトンなどが、「パラダイス文書」を飾る顔ぶれです。

これらタックスヘイブンの利用者は誰の助けも借りずに、タックスヘイブンを利用することはありません。オフショア・タックスヘイブンには、利用者に利用法を指南し、税逃れを手助けし、秘密の取引を誘導する広範なビジネスが存在しています。

「パラダイス文書」の最大の流出元となっていた法律事務所「アップルビー」はその一つです。「アップルビー」はバミューダに本拠を置き、ケイマン、ジャージーなど、世界の主なタックスヘイブンに事務所を構える、いわゆる「オフショア法律事務所」の一つです。

「オフショア法律事務所」は顧客にペーパーカンパニーの設立や、架空の所有者を提供することを主な業務とする法律事務所です。「オフショア・マジック・サークル(オフショア魔術団)」と呼ばれることもあります。

「パラダイス文書」に登場するのは、「オフショア法律事務所」だけではありません。「アップルビー」など「オフショア法律事務所」を顧客に紹介していたのは、「ペーカー・マッケンジー」など、世界最大クラスの法律事務所だったことも明らかになっています。

タックスヘイブンを支えるビジネスは法律事務所だけではなくありません。「パラダイス文書」では、「ビッグ4」と呼ばれる世界を代表する巨大会計事務所の名も登場しています。

たとえばアメリカ最大の投資ファンド「ブラックストーン」がイギリスの商業不動産を購入する際、税を逃れるために所有権をルクセンブルクやジャージー島のトラストを使うしくみをとっていましたが、「パラダイス文書」はこの仕組みを企画し作成した会計事務所、プライス・ウォーターハウス・クーパース(PWC)とデロイトの秘密レポートの存在を明らかにしています。

また「アップルビー」法律事務所のトップ20の顧客の半分は、シティバンク、バンク・オブ・アメリカなどメガバンクや巨大ファンドであったことも明らかとなっています。

オフショア世界は、秘密に閉ざされた世界ですが、その中心地は実はロンドン、ニューヨークなどの大都市の表通りに近代的なオフィスを構える法律事務所、巨大会計事務所またはメガバンクであったのです。

オフショア・タックスヘイブンはごく限られた巨大企業、特権者、超セレブたちだけに許された「パラダイス」であり、一般の人々が近づくことができない特別な領域です。それは社会に分断と深刻な格差を生み出す原因となっています。また巨大企業や富裕者による税逃れは、各国の国庫から多額の税収を奪い、その負担は一般の国民の肩に重くかかっています。